

緊急連絡体制の整備

富山営林署 総務課 労務厚生係長 寺井知己
庶務係長 湯浅正明

1 目的

富山営林署は1県1営林署であり、国有林が広範囲にわたっていること、及び平成3年10月に災害が発生して以来4年2か月間無災害が続いていることもあり、緊急連絡体制は整備されているものの、万一災害が発生した場合に迅速かつ正確に緊急連絡とその後の対応がとれるか危惧されます。

一つめの問題点に、署の体制とし、安全管理者等は在任期間が比較的短く、市町村、国有林の位置、病院の場所、病院までの経路等、知識不足で的確な指示ができない場合が考えられます。

二つめの問題点は、森林官、主任においても応援等で担当部内以外での業務遂行中に災害が発生した場合、適切な行動がとれない場合が考えられます。

そこで、誰もが適切に緊急行動がとれるようマニュアルを作成しました。

2 国有林別緊急連絡メモの作成

今回作成した国有林別緊急連絡メモは、従来から使用している緊急連絡メモを改良し国有林別に作成することにより、より正確で迅速な情報伝達をめざしました。

現場用と署内用の2種類を作成し、現場用はB4版、署内用はA3版、の1枚の中に全て納まるよう工夫しました。

(1) 現場用緊急連絡メモ

図1は長棟国有林の現場用緊急連絡メモです。

構成は位置図と連絡方法の2つとしました。

位置図は土地勘の無い者でも病院にたどり着けるよう心掛けて作りました。現場から病院に至る路線名、距離、ポイントとなる目標物、無線可能地点等を記入しました。

連絡方法は、冒頭でどこで何による連絡をするのか明示しました。

工夫したポイントは、No.6の被災者の容体欄で、簡単な処置方法を記載したほか、平成7年度当署で作成した「安全衛生活動の手引き」を活用し、よりの確な応急手当ができるようにしたことです。これからは、「緊急連絡メモ」と「安全衛生活動の手引き」をセットとして携帯していくつもりです。

図1

国 有 林 別 緊 急 連 絡 体 制																	
神通森林事務所 長棟国有林																	
(連絡方法) 災害現場付近より無線等により連絡																	
1. 署へ連絡	無線の要領「緊急！緊急！えいりんとやま、えいりんとやま、こちらえいりんとやま(4・1) 応答願います」(5秒ほどまち、応答がなければ繰り返す)																
2. 連絡者の氏名	(えいりんとやま4) スバル ドミンゴ (えいりんとやま1) ダイハツ ロッキー																
3. いつどこで災害があったか	時 分 頃 (約 時間前) 長棟国有林 林小班																
4. どこから連絡しているか																	
5. 誰がどこを被災したのか																	
6. 被災者の容体はどうか	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">「安全衛生活動の手引き」 B5版 黄表紙を参照</td> <td style="width: 20%;">P10(顔色) ふつう 白い</td> <td style="width: 20%;">意識) ある ない</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>P11(呼吸) ある ない</td> <td>P11(脈拍) ある ない</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>P12(出血) 多い 少ない ない</td> <td>(骨折) ある ない</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>P9.10(ハチ・ヘビ) ある ない</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	「安全衛生活動の手引き」 B5版 黄表紙を参照	P10(顔色) ふつう 白い	意識) ある ない			P11(呼吸) ある ない	P11(脈拍) ある ない			P12(出血) 多い 少ない ない	(骨折) ある ない			P9.10(ハチ・ヘビ) ある ない		
「安全衛生活動の手引き」 B5版 黄表紙を参照	P10(顔色) ふつう 白い	意識) ある ない															
	P11(呼吸) ある ない	P11(脈拍) ある ない															
	P12(出血) 多い 少ない ない	(骨折) ある ない															
	P9.10(ハチ・ヘビ) ある ない																
7. 介添え者はいるか	いる (だれか) いない																
8. 被災者はどこか	長棟国有林 林小班 林道起点より m(目標物等) 林道路肩より山側・谷側へ mの地点																
9. 救急車は必要か	いる いらぬ																
10. 救急車は県道荒屋敷月岡新線を經由して被災地に向かうがよいか	よい わるい (どの路線か)																
11. 次の連絡はいつどこで行うか																	

位置図

救急処置の方法

白い場合ショック注意
口のなかの異物を調べる
人工呼吸を行う
心臓マッサージを行う
直接圧迫法→止血帯法
添え木をして固定する
毒を吸い出し病院へ運ぶ

(2) 署内用緊急連絡メモ

図2は長棟国有林の署内用緊急連絡メモです。

構成は現場用と同様、位置図と連絡方法の他に、救急車の要請手順を加え3つで構成しました。

救急車の要請は、FAXの併用により、ほぼ読み上げるだけで正確な情報を送れるよう工夫しました。

連絡方法では、「連絡者への指示」と「※余裕があれば、だれと何をしていた被災したか聞くこと」を加えました。

図2

国有林別緊急連絡体制（署用）

神通森林事務所 長棟国有林

(連絡方法) 現場から無線等により連絡される

1. 連絡者へ連絡 (えいりんとやま4)スバル ドミンゴ
(えいりんとやま1)ダイハツ ロッキー
2. いつどこで災害があったか 時 分頃 (約 時間前)
長棟国有林 林小班
3. どこから連絡しているか
4. 誰がどこを被災したのか
5. 被災者の容体はどうか
(「安全衛生活動の手引き」
B5版 黄表紙を参照)

<p>P10(顔色) ふつう 白い (意識) ある ない</p> <p>P11(呼吸) ある ない</p> <p>P11(脈拍) ある ない</p> <p>P12(出血) 多い 少ない ない (骨折) ある ない</p> <p>P9,10(ハチ・ヘビ) ある ない</p>	<p style="text-align: center;">—救急処置の方法—</p> <p>白い場合ショック注意 口のなかの異物を調べる 人工呼吸を行う 心臓マッサージを行う 直接圧迫法→止血帯法 添え木をして固定する 毒を吸い出し病院へ運ぶ</p>
--	---

6. 応急処置はしたか した していない
7. 介添え者はいるか いる(だれか) いない
8. 被災者はどこか 長棟国有林 林小班 林道起点より m
(目標物等)
林道路肩より山側・谷側へ mの地点
9. 救急車は必要か いる いらぬ
10. 救急車は県道荒屋敷月岡新線を経由して被災地に向かうがよいか
よい わるい(どの路線か)
11. 連絡者への指示 ○応急手当をして現地で待て
○被災者を官用車で大川寺病院へ運ぶ
12. 次の連絡はいつどこで行うか

※ 余裕があれば、だれと何をしていた被災したか聞くこと

位置図



救急車の要請手順 (大山町消防署☎83-1119) (FAX)83-1194

1. 大山町消防署に救急車の出勤要請。
「こちらは富山営林署です。大山町長棟国有林において災害が発生し怪我人が 人 だったので、救急車を要請します。」「怪我人の状況は……です。☎24-4931から連絡しています。」
2. 救急車の走行経路を説明。(消防署にFAXで位置図を送付)
「大山町役場福沢支所前から県道荒屋敷月岡新線を17km南進したところに長棟国有林の入口があります。」「詳しい位置については位置図をFAXします。」
3. 被災者の現在位置を説明。
ア. 被災地から車にのせ大川寺病院へ向け移送中。(移送している車の車種、待ち合せ場所を確認)
イ. 現地にて応急手当を行い待機。

3 ま と め

国有林別に緊急連絡メモを作成したメリットとして次のことが挙げられます。

- (1) 位置図を入れることにより、土地勘の無い者でも病院の位置を把握しやすい。
- (2) 消防署への位置説明は、FAX等で早く正確に通報できる。
- (3) 「安全衛生活動の手引き」を利用することにより、より適切な応急手当が可能となった。

これからの課題として

- (1) 救急法の訓練を今後も続け、より確実な技術を身につける。
- (2) ハンディ無線機の配置と、中継基地の充実による通信エリアの拡大。

今回、連絡体制の整備を行ないましたが、このメモを実際には使用しないよう努力していきます。